

校長室だより
NO. 48
令和2年2月3日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

梅園小学校が大切にしてきた言葉

梅園小学校には、いろいろな書が額に入れられたり、石碑になったりして飾られています。書として書かれている言葉の意味は、この梅園小学校を充実・発展させていくために、また、子どもや教師一人一人の人生にとって有意義な教訓となる言葉として書かれていると思われます。現在、私たちは、そのような言葉を大切に生活しています。今回は、そのような書とその言葉の意味を探ってみたいと思います。

まず、右の百年庭園にある校訓碑「めあてを高く できるまでやれ」をあげることができます。多くの学校の校訓は抽象的な言葉で表現されていることが多い中、本校はたいへん具体的で分かりやすく考えられています。この校訓は、元々は「良き目あてを 正しき仕方で 出来るまでやれ」でありましたが、ちょうど創立百周年（昭和49・1974年）の頃、現在のようになったと思われま



百年庭園の校訓碑

す。それでは、その古い校訓の制定はいつかと調べれば、百周年記念誌には昭和3（1928）年と書かれています。しかし、平成28年6月12日の「校長室だより」でも触れましたように、15代校長石田利作先生以前から存在していたことが推察されます。つまり、本校の校訓は、梅園と名がつく前の高等小学校の教育の流れを汲むものということになります。そんな歴史ある校訓を今も受け継いでいるということは、とても素晴らしいことと思います。なお、校訓碑の文字は、書家の浅田蓬邨先生が書いたということです。浅田先生はこの後に紹介する書すべてにかかわっています。

次に、玄関に掲げられている右の書「移山」です。

これは、学校沿革史に、昭和58（1983）年（25代校長荻野富義先生）、「浅田蓬邨先生御寄贈の書『移山』の額を玄関正面に取り付ける」とあります。これは、中国の古典で「愚公移山」からのもの



玄関の「移山」の書

です。その意味は、「昔、愚公という老人の家の前に2つの大きな山があり、どこに行くにも不便でした。そこで、愚行はこつこつ山を切り崩し平にしようと思いました。周りの人は嘲笑しましたが、何代にも渡ってやればできると山を崩し始めました。その愚公の熱意を感じた天帝が2つの山を移しました」というものです。大きなことでも根気よく努力し続ければ必ず成功することのたとえであり、校訓「めあてを高く できるまでやれ」に通じるものがあります。この精神を26代校長内田松夫先生が現職教育誌『梅小移山』として、教職員の研修の成果をまとめ、昭和60（1985）年に創刊しました。今年度で36号となります。

次に、裏面の書「芭蕉曰く 古人の跡を求めず 古人の求めたるところを求めよ」です。これは、20代校長後藤金好先生が書家の浅田蓬邨先生に依頼をして書いて

もらった書ということです。校長室に飾られ、これまでの歴代の校長先生方が、この言葉を大切に、梅園小学校の学校経営をしてきたという貴重なものです。

それでは、まず何と書かれているかと見てみると、

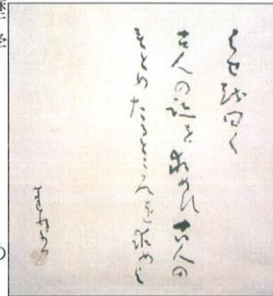
「はせを（芭蕉）曰く

古人の跡を求めず

古人の毛（も）とめたることを求めよ

と書かれています。これを整理して書くと「古人の跡を求めず、古人の求めたることを求めよ」になります。

これは松尾芭蕉（1644～1694）の句で、出典は、『許六離別の詞』（柴門の辞）です。芭蕉は、弟子の許六と別れる際に、弘法大師の言葉を参考にしながら、この言葉を贈ったということです。ここでの「古人」とは過去の偉人でしょう。句の意味としては、「昔の偉人たちが何をしたかという結果ではなく、何をしようとしたかという志を見極めて行動しなさい」という意味になります。芭蕉は、許六へ俳諧において、「最初は自分が憧れる誰かのまねであってもよい。たとえまねから始めたとしても、それをやり遂げようとする過程の中で、自分が理想とするものが見えてくるはずであり、その理想を求めなさい」ということを言いたかったのでしょう。そのような意味から、後藤金好校長先生は、後世の校長に梅園小学校において「先人たちの遺業の形骸を追いかけるのではなく、その古人の理想としたところを求めなさい」ということを伝えようとして、書にしてもらったということが伝わってきます。



校長室の芭蕉の句の書

最後に、体育館のステージに向かって左側にある右の書「敬愛信」です。これも、書家の浅田蓬邨先生の書ということですが、いつどのような経緯で書かれて掲げられたのかは分かりません。この書の内容を基にして、平成28（2016）年の梅園百歳のテーマを「梅園を敬い 梅園を愛し 梅園を信じる」としました。そして、梅園小学校や梅園学区の百歳の誕生日を祝うために、自分たちでできることをやろうということで、いろいろな活動が展開されました。その内容は、記念マーク「百梅くん」をデザインしてバッジにしたり、テーマソング「梅園プライド」を作ったりしました。歌は今も歌い続けています。それらは、くすくんの根元近くに建てられた「梅園百歳モニュメント」に刻まれています。その裏側には、その時に活動したグループ名がすべて刻まれ、その活動内容を知ることができます。



体育館の「敬愛信」の書

以上が、本校の書の主なものですが、すべてが梅園小学校にとってに意味のあることが分かります。だからこそ、これまで本校で大切にされてきた言葉であり、めざすものとなっています。また、ここにはこれまでの梅園小学校の教育が集約されているようで、歴史の深さを感じるとともに、ここで生きた先人の功績や大いなる生きる力を感じます。



梅園百歳モニュメント